

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 444 号	氏名	関 幸子
学 位 審 査 委 員		主 査	梅田 正博
		副 査	林 善彦
		副 査	大井 久美子
論文審査の結果の要旨			
1. 研究目的の評価 本研究は、口腔扁平上皮癌の病理組織診断を通じて、より正確な予後予測を可能とするモデルを構築することを目的として行ったものであり、目的は十分に妥当である。			
2. 研究手法に関する評価 本研究において、口腔扁平上皮癌初回手術症例のパラフィン切片を用いて、血管形成関連因子、VEGF-A、VEGF-C、COX-2 及び Midkine に対する抗体で免疫組織化学染色を行い、染色態度により 4 段階もしくは 3 段階に分類評価した。この評価結果に加え、各症例の TNM 分類に基づく臨床病期、静脈侵襲の有無、年齢、性別等の各因子について予後との関連について Cox 比例ハザード回帰モデルを用いて単変量解析した。さらに、予後と有意な関連を認めた変数を組み合わせて多変量解析を行い、予後を有効に予測できるモデルを構築した。このとき、線形結合モデルだけでなく、変数に and や or を含むロジックモデルの構築も試みた。これらの研究方法は妥当かつ独創的である。			
3. 解析・考察の評価 上記の手法で解析した結果、静脈侵襲と VEGF-A または VEGF-C の強発現を変数に用いたロジックモデルでは、口腔扁平上皮癌の予後に対して優れた適合度を示し、口腔扁平上皮癌の予後予測に有効であることが強く期待された。			
以上のように、本論文は、口腔扁平上皮癌の予後予測に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。			